

平成21年 課題文作成コンペ

(1) 課題文タイトル

「ビジネスホテルとフィットネスホテルからなる複合施設」

コンセプト： 「宿泊者にはリフレッシュを、近隣ビジネスマン（ウーマン）には健康管理と家庭の安心を」

(2) 設計主旨

出張ビジネスマンと格安旅行者が宿泊費とサービスの両面で、都心との距離に関係なく利用したい「ビジネスホテル」と、都心近郊で増加する家族世帯層に向けた、お手軽会費で健康をサポートする「フィットネスクラブ」を24時間開放のエントランスホールを中心に利用しやすい計画とした。また共用部門には、健康管理メニューが自慢の「レストラン」と近隣の若夫婦世帯が気軽に利用できる簡易託児所を設けた。(196文字)

(3) 今回のコンペについての感想

施設づくりは、多様な切り口で何を優先して創るか、その選択がいつも難しいと感じます。国語力開発講座で学ぶ中でつかみかけた、グルーピングの感覚まだまだですが、訓練していきたいと思います

今回案で考えたこと

今回は、「エントランスを中心に人が集まる」「利用者がニーズに従い各部門や部門内所要室へと導かれる」という当たり前のわかりやすい動線計画とするとともに、管理ゾーンでは緩やかに部門間がつながる施設として計画しました。

地価が高い駅前では、面積効率も重要ですが、集客のための「共用ゾーン」はできるだけゆったりとした空間、「管理ゾーン」やコア（階段・エレベーターなど）は、必要最低限の面積での計画となうことを心掛け、必要に応じた部門・所要室の面積配分とすることで、立地に素直な施設になりえると考えました。

「都心 - 都心間に位置する地方都市の鉄道駅」駅前に集まる人々を想定しました。

・想定される利用者：出張ビジネスマン・旅行者、近隣家族（若～中年層）

「利用者、管理者がのぞむ所要室」の検討

< ビジネスホテル >

「管理の立場」からは宿泊費低減のため、人件費のかかる所要室を極力設けない他部門施設を利用と考えました。

「利用者の立場」では、自身の経験から「自分が泊まりたいビジネスホテル」の観点で、「あると良い」「手軽に利用したい」と思う所要室を検討しました。

・リラクゼーションルーム。マッサージチェアを手軽に利用できる

- ・手軽なカフェ的要素と充実メニューも出すレストラン（共用：レストランに）
- ・ユニットシャワーでなくて「お風呂」に入りたい（フィットネス部門利用に）
- ・高齢夫婦のビジネスホテル利用者最近見受けられることから、ツインルームも多めに設置

<フィットネス>

近隣の若～中年層が、メタボ対策など健康管理を行いながら効率的なダイエットプログラムを実践出来る施設であり、ビジネスマンの利用も考慮し、

- ・運動消費効率の良い（水の負荷を感じながら歩く）トレーニングプール室
- ・日々の実践と効果を数字で確認できる運動マシンのあるトレーニングマシンルーム
- ・健康状態を測定しアドバイスを行う測定・相談室（栄養管理メニューはレストランに）

<共用：レストラン>

- ・ビジネスホテル部門の食事、及びフィットネス部門の栄養管理を補助
- ・地域の利用者向けの健康管理メニュー料理のレシピと作り方講習
地域活動展示コーナーに活動実績を掲示

<共用：託児所>

- ・夫婦で「ちょっとお出かけ」時に安心して預けられる、ストレス社会の補助機能

<共用：コンビニエンスストア>

- ・節約ビジネスマンの味方